

2023年3月10日

## 第7回 ONE ジャパン ターミナル安全・品質大会を開催

オーシャン ネットワーク エクスプレス ジャパン（ONEジャパン）は3月10日、『第7回 ONE ジャパン ターミナル安全・品質大会（京浜大会）』を東京本社で開催しました。ONE ジャパンターミナル・安全品質委員会（委員長：中井拓志代表取締役社長）主催のもと、京浜地区のパートナー会社を対象に開催したもので、対面での開催は2019年12月の第1回大会以来、約3年3カ月ぶりとなります。第7回京浜大会にはパートナー会社をはじめとする関係者23人が参加し、各社が実施している安全活動や今後の重点的な取り組み方針を報告しました。



### 約3年3カ月ぶりに対面で開催

開催にあたり、中井委員長は「第1回大会以降、ウェブでの開催が続いたが、こうした環境に戻ったことを嬉しく思う。サプライチェーン混乱は落ち着きつつあるが、当社の最大の使命はスケジュール通りに貨物を運ぶこと。そのためにも安全で事故のない輸送の実現が不可欠であり、会社全体で取り組みを強化していく」とあいさつしました。

大会では、ONE 運航船のコンテナ積み付け計画作成や荷役作業の効率化・安全対策に取り組む次世代海上コンテナ輸送研究所（AOCTEL）の佐々木勝吉センター長が、AOCTEL が実施する安全対策の概要を説明。また鈴木智之委員（常務執行役員）が、ターミナル安全・品質委員会の活動を報告し、パートナー会社を実施する安全対策や、ONE ジャパンの港湾安全監督制度について説明しました。このほか各パートナー会社からも、22年度下期の振り返りと23年度上期の重点取り組み項目について説明が行われました。

続いて戸田潤副委員長（取締役専務執行役員）は「港湾混雑の鎮静化で欠便は減ってきたが、来年度に向け改めて基本を徹底したい。南本牧の一体運営ではさまざまな協力を頂き、大変頼もしく感じている。ここでのオペレーションをさらに進化させたい」と語り、ポスター掲示や港湾安全監督制度と併せ、協力を呼びかけました。

大会の閉会にあたり、村尾圭司委員（常務執行役員）は「当社では現在、顧客との長期契約交渉が佳境を迎えているが、交渉の場でも安全・作業の品質は非常に重要視されている。今後も連携を強化して事故を防いでいきたい」とあいさつし、輸送品質向上に向けた決意を示しました。

なお中部大会はONE ジャパン中部支社で3月17日に、阪神大会はKICT（神戸国際コンテナターミナル）会議室で同24日にそれぞれ開催予定です。



中井委員長による表彰状授与